

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテを利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

ICUにおけるミダゾラムの作用遷延および増強に及ぼす血中アルブミンの影響に関する後ろ向き研究

【研究機関】

愛媛大学医学部附属病院薬剤部
松山大学薬学部

【研究機関の長】

杉山 隆(愛媛大学医学部附属病院長)

【研究責任者】

田中 守(愛媛大学医学部附属病院薬剤部長・准教授)

【研究の目的】

作用時間の短いベンゾジアゼピン系薬剤ミダゾラム(MDZ)は、鎮静や抗痙攣作用を目的に集中治療室(ICU)で持続的に使用されることが多い薬ですが、MDZを中止した後に様々な要因でこれらの作用が遷延、増強することが問題となっています。その理由の1つに、MDZは血液中で蛋白(主に、アルブミン(Alb))と結合する割合が97%と非常に高く、そのため、血液中のAlbが低下した場合にMDZの作用が遷延、増強する可能性を考えています。しかしながら、これまでに血液中のAlbが低下した時のMDZの作用に関する報告はほとんどありません。

本研究では、血液中のAlbがMDZの作用に及ぼす影響を明らかにすることを目的に、愛媛大学医学部附属病院(当院)ICUへ入室した患者さんを対象にカルテ調査を行います。

【研究の意義】

MDZの作用増強および遷延に関する要因が明らかとなればその回避、そして、ICUの入室期間の短縮に繋がると考えています。

【調査の対象となる患者さん】

2015年1月1日～2022年5月31日までに当院のICUへ入室し、24時間以上MDZを投与された患者さん

【研究の方法】

対象の患者さんの年齢、性別、BMI、ICU入室の原因、入室時のSOFAスコアおよびRichmond Agitation-Sedation Scale (RASS)、ICUの入室期間、抜管までの日数、MDZ、デクスメトミジン、プロポフォール、ロクロニウムの累積投与期間および累積投与量、フルマゼニル投与の有無、体外循環の有無、検査歴(Alb、T.Bil、AST、ALT、 γ -GTP、Cre)などを電子カルテより後方視的に調査します。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。そのため、個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

< 試料・情報の管理責任者 > 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 矢野 賢明

本研究からご自身の情報を除いてほしいという方、また、本研究の内容に関して詳細な情報を知りたい方は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院薬剤部 矢野 賢明

791-0295 愛媛県東温市志津川 454

電話番号: 089-960-5872